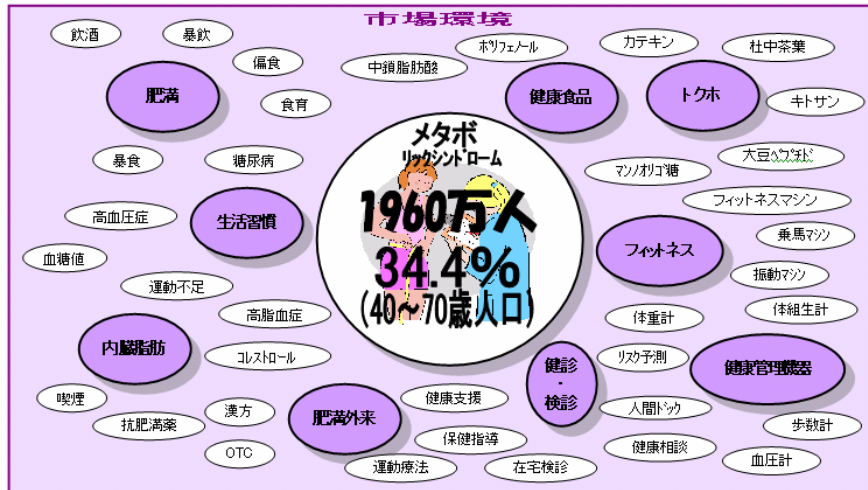


調査内容の解説

【メタボリックシンドローム関連市場の概況】

メタボリックシンドローム関連市場の市場環境を見ると、生活習慣を起因とした肥満、内臓脂肪にまつわる高血圧症、高脂血症、動脈硬化、高血糖、肥満症などの疾病とそれに関係した健康食品や特定保健用食品を中心とした食品・栄養、健康診断や肥満外来などの医療・診断、更には、フィットネスなどに代表される運動が中心であることがわかる。

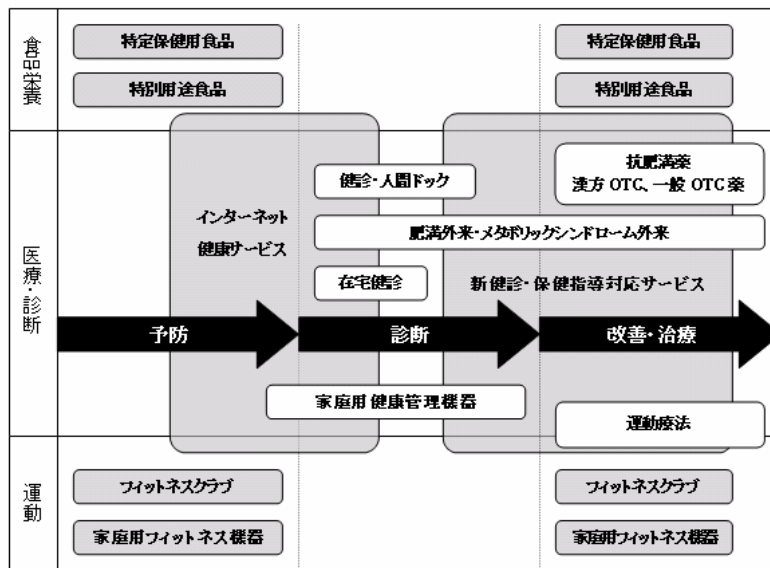
図表 1 メタボリックシンドロームの市場環境



※該当者数は厚生労働省「平成 16 年国民健康・栄養調査結果」より

そこで、予防、診断、改善・治療の医療 3 分野とその食品・栄養、医療・診断、運動の対策 3 分野をクロスさせ市場セグメント化し、参入している製品・サービスを組合せると、市場全体像がみえてくる。(図表 2)

図表 2 メタボリックシンドローム関連市場のセグメントと製品・サービス関連図



食品・栄養の特定保健用食品は、予防分野、改善・治療分野でも扱われ、運動のフィットネスクラブも同じく予防と改善・治療分野で扱われている。また、インターネット健康サービスは医療・診断で、予防～診断にまたがっていることが理解できる。更に、肥満外来、メタボリックシンドローム外来なども医療・診断の診断～改善・治療分野にまたがっていることが理解できる。

【メタボリックシンドローム関連市場の市場規模分析】

図表2の市場セグメントに沿って、市場規模を分析すると、予防分野では特定保健用食品、特別用途食品、フィットネスクラブ、フィットネス機器で7,330億円、診断では、検診・健診関係で2,765億円、家庭用健康管理機器で3,265億円と合計1兆595億円。更に、改善・治療分野の糖尿病関連医療費で1兆168億円、循環器系疾患関連医療費で5兆4,603億円と、全てがメタボリックシンドロームと関連付くとは限らないために参考値として、合計で7兆5,366億円となる。(図表3)

図表3 メタボリックシンドローム関連市場規模(2004年)

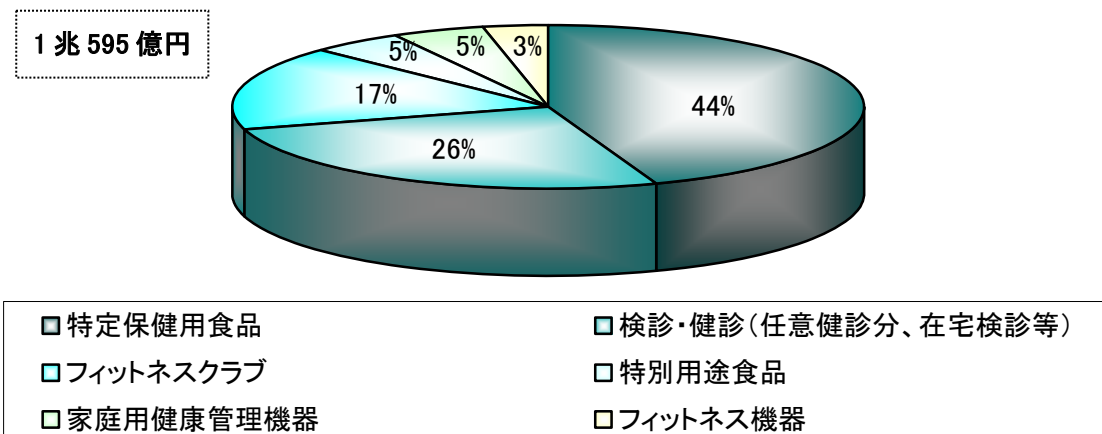
予 防	食品・栄養	特定保健用食品	4,700	5,200
		特別用途食品(低カロリー食、低ナトリウム食、糖尿病食等)	500	
	運動	フィットネスクラブ	1,770	2,130
		フィットネス機器(業務用・家庭用)	360	
診 断	診断	検診・健診(任意健診分、在宅検診等)	2,765	3,265
		家庭用健康管理機器(電子血圧計、歩数計、体組成計、心拍計、体重計)	500	
	合計			10,595億円
改 善 治 療	医療	糖尿病関連医療費	10,168	64,771
		循環器系疾患関連医療費 (内 高血圧治療費 18,936)	54,603	
	合計(参考値)			75,366億円

注)分野がまたがる製品サービスは、ウェイトが高い方に含める

- ・特定保健用食品、特別用途食品は(財)日本健康・栄養食品協会公表値を参考に出荷ベースにて弊社推計
- ・フィットネスクラブは社会経済生産性本部『レジャー白書』を参考に弊社推計
- ・フィットネス機器、検診・健診、家庭用健康管理機器は弊社推計
- ・糖尿病、循環器系疾患関連医療費は厚生労働省公表値を参考に弊社推計

改善・治療分野を除いたメタボリックシンドローム関連市場1兆595億円の内訳をみると、特定保健用食品が4,700億円・44%とトップ。続いて、検診・健診が2,765億円・26%、フィットネスクラブが1,770億円・17%となっている。(図表4)

図表4 メタボリックシンドローム関連市場規模(予防、診断分野)の内訳

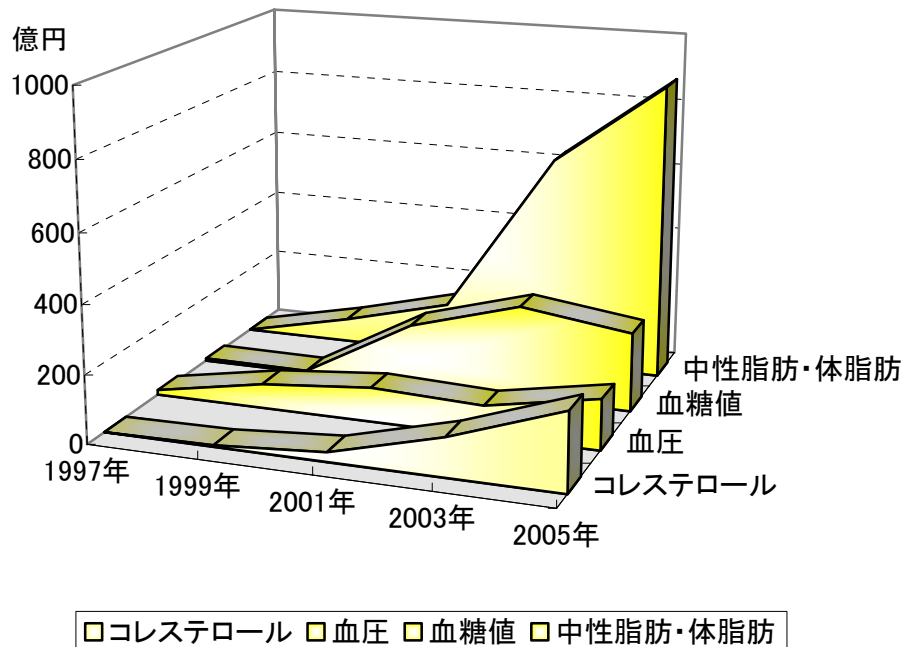


【 メタボリックシンドローム関連市場のトレンド 】

このような多くの製品・サービスが存在する中で、トレンドとしてあげられるものは、特定保健用食品における『中性脂肪対策訴求品』と漢方薬剤における『防風通聖散』である。

前者は、関与成分として、ジアシルグリセロール、中鎖脂肪酸、茶カテキン、ウーロン茶重合ポリフェノール、EPA、DHAがあり、主な製品は、この分野の先駆けとして、1999年・食用油の花王「エコナ クッキングオイル」(ジアシルグリセロール)に始まり、2003年・日清オイリオ「ヘルシーリセッタ」(中鎖脂肪酸)に続く。茶飲料としては、2003年に花王「ヘルシア」(茶カテキン)、2005年にはサントリー「黒烏龍茶」(ウーロン茶重合ポリフェノール)が市場参入。この背景を受け、(財)日本健康・栄養食品協会から出されているメーカー希望小売価格でみた市場規模推移では、他のメタボリックシンドロームに関連したものと比べ、中性脂肪・体脂肪に向けた『中性脂肪対策訴求品』の特定保健用食品の伸びが激しく、2001年 27.9 億円が 2003年には 113.6 億円の 4 倍強と規模的にも群を抜いている。(図表 5)

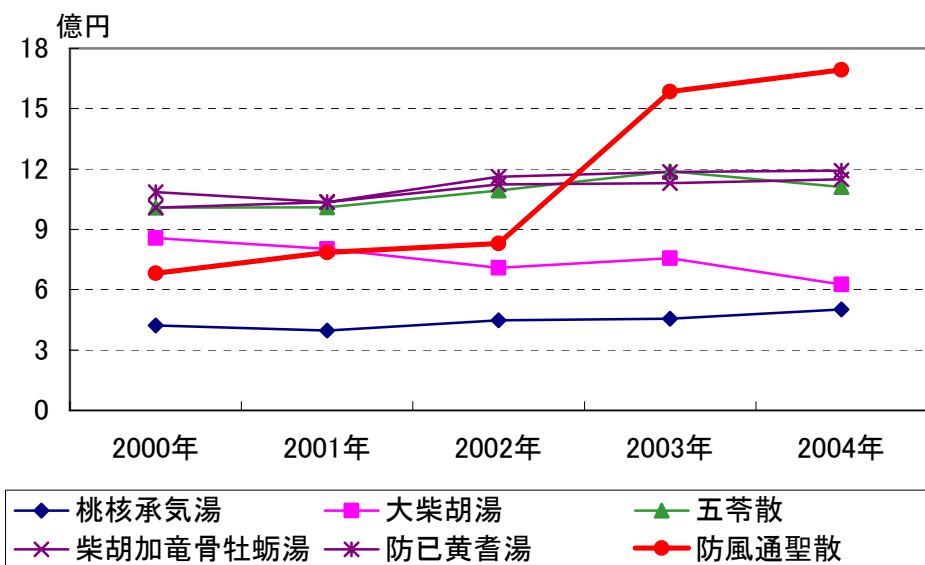
図表 5 メタボリックシンドローム関連「特定保健用食品」市場規模推移



(財)日本健康・栄養食品協会

後者は、2003年以降の伸びが最も顕著である漢方薬で、皮下脂肪、便秘を主な効能・効果の対象としているもので、生産高でみると2002年 8.3 億円が2003年には 15.8 億円・1.9 倍と突出している。(図表 6)メタボリックシンドロームに関連した漢方薬は、その他に、防己黄耆湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、五苓散、大柴胡湯、桃核承気湯などがあるが、それらは生産高で 11 億円強を推移しているのが主流であるが、防風通聖散だけが 17 億円に迫る勢いを持っている。その代表的な漢方 OTC として、小林製薬「ナイトール 85」とロート製薬「和漢箋」が 2006 年に相次いで発売された。

図表 6 メタボリックシンドローム関連漢方薬の生産高推移(2000～04年)



日本漢方生薬製剤協会

【メタボリックシンドローム関連市場の展望】

今後の展望では、2008年から実施される新健診・保健指導の新ビジネスが注目される。中でもメタボリックシンドロームに対するリスク予測を含めたプログラムや健診結果と保健指導を組合せたシステム、更には Web を利用した健康支援サービスなど、新規参入組も含め、市場をにぎわしている。また、生活習慣、内臓脂肪を減らすために、『手軽さ』をキーワードに市場拡大が見える。花王「ヘルシアシリーズ」、サントリー「黒烏龍茶」に代表される中性脂肪対策訴求製品も健康飲料タイプで継続的に売上拡大が望め、運動習慣改善では、乗るだけで10分・1万歩以上の効果と言われる『振動トレーニングマシン』が関西地区からヒットを生み、コンビニ・フィットネス(500円ワンコイン型)などを誕生させている。弊社調べでは、40アイテム以上の製品が流通している。